

令和2年10月8日（木）
南日本新聞「ひるば」掲載

「自然に体が動いた」

5年 草清 希宏

自然に体が動いた

野神小5年

草清 希宏

母と買い物に行ったときのことだ。ぼくが店に入ろうとするのとすれちがいに、両手でつえをついたおじいさんがやってきた。

ぼくはとっさに、しめかけた押し戸を開けた。するとおじいさんは、ぼくを見てにっこり笑って「ありがとうね」と言った。ぼくはちよつとほずかしかったけれど、うれしくなった。

総合的な学習で、年をとっていくと目が見えにくくなることや、手足が思うように動かなくなることを体験していた。ぼくは困っている人がいたら、すぐに手をかしたいと思っていた。その一方で、本当にすぐに行動が起こせるかな、知らない人に声をかけられるかなと思っていた。

実際に目の前に困っている人がいたら、何も考えずに自然に体が動いていた。自分におどろいた。「ありがとうね」の言葉と笑顔で、ほつとした。

（志布志市）